

投稿日 平成30年11月26日

香川ブロック 高木 繁雄

喜 寿

今年、喜寿のお祝いを、去年は金婚式（1月のため）のお祝いを、2年続けて頂きありがとうございました。11月で、77才になりましたが、大きな病気もせず過ごしています。ただ、体力の低下をヒシヒシと感じております。60才前から体力の衰えを感じ【体力は貯金出来ない】と思い、朝の散歩を続けています。

家の近くにある281mの金山には、山の中腹に小さな神社があります。朝明るくなる頃約1.5kmの坂道を神社目指して登ります。途中でストレッチをしながら往復約1時間半、真冬でも薄っすら汗をかきます。今後も週4~5回を目標に、体力維持と健康のために、続けていきたいと思っています。



お寺の御朱印帳と四国八十八ヶ所の御朱印

『ボケ防止』のため、全国の一の宮(108社)と、全国の有名神社の巡拝を、現在進行中。
以前は、お寺の巡礼を続けていました。

① 四国八十八ヶ所の巡礼、昭和48年(1973) 弘法大師御生誕1200年の年、親戚の人の勧めで始める。

【6回巡礼】平成26年(2014)の弘法大使四国八十八ヶ所開創1200年の年まで6回礼しました。

◎ 4回目は「歩き遍路」、<区切り打>を、5年かけて(平成13年～平成17年)毎年5月の連休に歩いて回りました。歩いた距離延べ約1,530km
要した日数35日、厳しい事もありましたが、大変に思い出深い良い巡礼でした。

② 四国別格二十二霊場を2回巡礼。

③ 日本百観音霊場の巡礼。

① 西国三十三観音霊場、2府5県(和歌山、大阪、京都、兵庫、滋賀、岐阜)を昭和47年(1972)に巡礼。

② 坂東三十三観音霊場、1都6県(神奈川、埼玉、東京、群馬、栃木、茨城、千葉)を昭和55～56年(1980～1981)巡礼。

③ 秩父三十四観音霊場、(埼玉県秩父市の1市)を昭和57年(1982年)に巡礼。

*以上、日本百観音霊場を巡礼し結願しました。

④ 関東三十六不動霊場、1都3県(神奈川、東京、千葉、埼玉)を、昭和62年(1987)に巡礼。

と、お寺をいろいろと回っておりましたが、ある時、高校のバレーボール部の先輩で「宮司」をしている人と会い、神社について話を聞く機会があり、神社の創建の歴史、御祭神(ご神体)は誰か、などいろいろ話を聞き、また、平成3年に全国の古い神社や地域の発展に寄与した神社をまとめた【全国一の宮会】が発足した話を聞き興味を持ちました。

一の宮は、平安時代から逐次整った一種の社格で、諸国でそれぞれの地位を占め、地方に下向した国司が巡拝する時の順序で、最初に参拝したのが<一の宮>、次に二の宮、三の宮となった。しかし時代の流れ、勢力の変遷もあり、首位の一の宮の順位の変動もあり、一国内二社以上の一の宮存在する様になっている。神社本庁の作成した【全国一の宮】は、108社になっています。



神社の御朱印帳と御朱印

平成15年から始めた、全国一の宮の巡拝も15年目で99社の巡拝を終えて、残すは9社になりました。巡拝してみると、参拝者が多い神社もありますが、一の宮と言いながら「宮司」のいない神社も数社あり「栄光盛衰」を感じます。また、有名神社はさすがに参拝者も多く、最近では海外の観光客が多いのには驚きます。同時に一部の外国観光客のマナーの悪さも目につきます。自分も気を付けたいものです。

巡拝を始めた頃は、各神社の事が良く分からず、神社の由緒書を貰い、話を聞きながら、お参りをしていました。始めは、御祭神の名前も分からず、創建の歴史、神話の話など理解に苦しんだものです。その頃、書店で日本最古の書『古事記』編纂1,300年のイベントが盛んに行われ、「古事記」関連の書物が多く発表されていたので、初歩的な本を買い、読んでみると数々の神話で構成されており、神代の事も良く分かる様になり、御祭神、神社の創建

も理解できるようになりました。大変に役に立ち、「古事記」にゆかりの有る神社が多い事にも気が付きました。

一部、参拝の神社を紹介

☆ 対馬国一の宮《海神神社》＝朝鮮半島を見張る海の守護神。

昔から日本と大陸を結ぶ島の神社御祭神＝豊玉姫命(トヨタヒメノミコト)・鶴草草葺不合命(ウガヤフキアズメノミコト)。九州から 132 km、朝鮮半島から 50 kmと、日本より韓国に近い島にある神社。石段を 280 段登った所にある神社、高所から韓国釜山が見える。島の観光収入の大半は韓国人による模様

☆ 老岐国一の宮《天手長男神社》＝九州と対馬の間にある、玄界灘の要衝を守る神社。御

祭神＝天忍穂耳命(アメノホホミノミコト)・天手力男命(アメノタヂカオノミコト)天鈿女命(アメノウズメノミコト)、昔から文化交流、軍事で重要な地点、元寇での被害の歴史が残る。

麦焼酎の発祥の地。

☆ 津軽国新一の宮《岩城山神社》＝本州最北端の北門の鎮護、津軽富士の東南麓に鎮座。

御祭神＝顕国魂神(ウツシケニタマノカミ)、多都比姫神(タツヒメノカミ)、宇賀能売神(ウガノメノカミ)、大山祇神(オヤマヅミノカミ)、坂上刈田麻呂(サカノウエノカキタマロ)

秋、晴天の津軽平野走り、リンゴ畑の間を行くと津軽富士をバックに神社がありました。

本殿を始め、社殿の豪壮華麗さには驚く。石の角柱に彫られた狛犬は珍しく愛らしい。

☆ 出羽三山の奥宮《湯殿山神社本宮》＝「話すなかれ」「聞くなかれ」、大変に神秘に満ち

神社。御神体＝温泉の湧き出る巨岩。御祭神＝大山祇神(オヤマヅミノカミ)、大己貴神(オホオホノカミ)、少彦名神(スクナビコノカミ)

標高 1,500m、月山南西山麓に鎮座、本宮の参拝には、履物を脱ぎ裸足で、お祓いを受けなければ、参拝は許されない、俗世と切り離された神域。 【写真撮影は禁止】

☆ 熊野三山の奥宮《玉置神社》＝大峰山系，標高 1,076m の霊峰・玉置山・山頂直下に鎮座する。御祭神＝国常立尊(クニトコタマヒコト)、伊弉諾尊(イザナノミコト)、伊弉冊尊(イザナミコト)、天照大御神(アマテラスオホミカミ)、神日本磐余彦尊(カムヤマトイワヒコノミコト)

神代杉を始め樹齢 3,000 年と云われる老樹大樹の震域、大峰修験道の拠点になっている。神武天皇東征の際、熊野に上陸し「八咫鳥」の先導で、この地で神宝を納め武運を祈願したと伝えられている。

この 5 社以外にも、数えきれない程、貴重な体験をし、多くのパワーを頂いて来ました。これからも、健康に気を付けて、残り 9 社の一の宮や各地の神社の参拝を続けたいと考えています。